

横浜市立茅ヶ崎小学校 令和二年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
自分らしさを創る たくましい ちがさきっ子	<問題発見・解決能力> <心身ともにたくましく生きる力> <自分づくりに関する力>

(2) 中期取組目標

中期取組目標
○学校教育目標を実現するために、子ども一人ひとりを大切にしながら活力と魅力あふれる学校づくりに努めます。 ・自己をコントロールする力と規範意識、を身につけるとともに、自己肯定感と自己有用感を感じることができる子どもを育成します。 ・学ぶことの楽しさ、体験することの楽しさを実感できる授業を目指し、教師力・授業力の向上を図ります。 ・地域の人々、自然、施設などに積極的に関わる「体験学習」を通して、地域協働教育の充実を図ります。 ・校舎内外の美化と安全の確保に努めます。

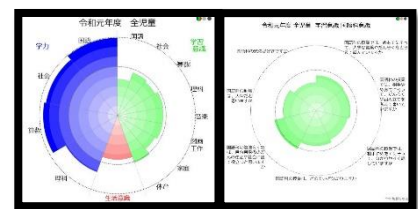
(3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①交換授業や少人数制個別指導など児童の実態に即した指導方法を効果的に取り入れることでじっくりと考える時間を確保する。 ②学習のねらいを明確にし、学習の質を高める。また、UD(重点研究を中心にして)を意識し「分かる楽しい授業」の実現に努める。 ③児童の考えを生かすことで、児童が主体的に学習に取り組むことができるよう努める。この学習を通して実生活を含む様々な場で活用可能な資質・能力の育成につなげる。
担当	学力・教師力向上部会

2 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析

全体的な学力においては、横浜市の平均を大きく上回っている。特に国語科や算数科で高い得点が表れている。しかし、学習意識においては、ほとんどの教科で横浜市の平均を下回っている。中でも国語科が低く出ており、「好き」という子どもが著しく少ない。ただし、「生活や社会の役に立つ」という意識が高いので、授業改善によって、国語科の力をさらに高められると期待できる。



(2) 教科学習の状況

- 生活科：昨年度と比べ、生活科が好きという児童が90%から96%に上がった。
- 社会科：「社会科の勉強では、自分が考えたことを書いたり、話し合ったりしていますか。」という問いに対して市の平均を上回っていた。昨年度の研究の成果が表れている。
- 国語科：上記の通り学力は高いが、好きという意識が低く、特に学年が上がるにつれてその傾向が強くなっている。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

国語の学習が好きと感じている子どもの割合が毎年低く、さらに学力が低くなるにつれて、その特徴が顕著に表れる。また、A～D層の間で、「書くこと」「読むこと」の学習意識に差があることが見られた。6年生を例に挙げると、右のグラフのように、A層B層の子どもは、めあてや相手を意識して書いたり読んだりしていることが分かる。これらのことにより、めあてや相手を意識した言語活動（他者との関わりの中で表現できる活動）を重視することで、学力が向上し、国語の学習が好きという子どもが増えると考えられる。

